項目	意見の概要	町の考え方
○手漉き和紙（細川紙）のＰＲの徹底	・後継者の育成、研修所の拡充（工芸館の改修を県に働きかける）及び和紙工房、研修者へ補助金を配布。郷土の特産を何故、積極的に活用しないのか。	総合戦略の「基本目標4」に掲載した地域活性化を推進する取り組みの中で、細川紙（手漉き和紙）の後継者育成支援や和紙を使用した商品開発等への支援を計画しています。 なお、埼玉伝統工芸会館については、ご意見を参考にさせていただきます。
○耕作放置田畑の積極的な転用	・耕作放置されている田畑を活用して和紙の原料の楮の栽培、麦・そば等を栽培してはどうか。	遊休農地等を利用した「トロロアオイ」（和紙のネリの原料）の栽培を行っているところであり、今後とも遊休農地の再生に積極的に取り組んで参ります。
○林業･製材業の活性化	・林業・製材業は小川町の主要産業の一つである。間伐材を活用して“集成材”製造を行うなど、行政として指導、助言してはどうか。集成材は今後大幅な需要が見込める。	「小川町森林整備計画」（平成25～34年度）において、森林組合が中心となり、今後増加する間伐材の市場出荷拡大を図るとともに、森林組合の製材工場の充実などを計画しています。ご意見を踏まえ森林組合等と連携して参ります。
○IT産業の誘致	・関越自動車道に嵐山小川インターが出来て久しいが、広大な敷地を必要としないＩＴ産業を誘致出来る「ミニ工業団地」を作るべきだと思う。	総合戦略の「基本目標2」に掲載した町における安定した雇用を創出する取り組みにおいて、企業誘致を進める計画としております。また、第5次総合振興計画基本構想の土地利用構想においても、工業･流通系等の新たな土地利用の誘導を図ることとしています。
○小川町駅の改修・再開発の促進	・小川町駅の南口も・北口も思い切って広く再開発すべきだ。町としてもっと積極的に県、東武鉄道、ＪＲ東日本に働き掛けるべきだ。駅舎は和紙、木材を多用したデザインが良いと思う。	第5次総合振興計画前期基本計画第3章第5節「道路･交通」において、小川町駅周辺整備を計画しており、北口の開設や駅前広場の整備等について関係機関と協議することとしています。
○観光対策	・武蔵野の小京都が泣いている。手漉き和紙、東秩父七峰縦走ハイキング、地酒を元に関係者と協議し早急に対策を練るべきである。優しく、美しい小川町をＰＲし観光客を呼び込もう。	総合戦略の「基本目標4」に掲載した地域活性化を推進する取り組みの中で、”本町の強みを積極的に発信していく”観点から、魅力を知ってもらうイベントや情報発信ツールの開発を進めることとしています。
○空き家対策	・空き家の実体を早急に調査・集計し、町への転入者へ斡旋する。仕事も紹介出来れば更に良い。	総合戦略の「基本目標1」に掲載した町へ新しい人の流れをつくる施策として、空き家活用による転入希望者支援を計画しており、空き家情報の管理や情報発信等を進めることとしています。
○若い人の意見集約	・小川高校の生徒にアンケートをして若い人の意見を聞き参考にする。	今回の総合戦略の策定及び第5次総合振興計画の策定の基礎調査として、小川高校も含めた高校生アンケートを実施しました。